

No.119
2015
Winter

Hachinohe
Institute
of
Technology
Press
SOUKYU

蒼穹

学校法人八戸工業大学 広報

H. I. T. Communication



CONTENTS

八戸工業大学

- p2-3 新年を迎えて、成人式市民憲章朗読、サークル活動活躍（アイススケート部・卓球部・レスリング部）、ビブリオバトルチャンプ本、スマートデバイス全国大会第4位、市民コンペ最高賞
- p4-5 ロボットコンテスト、ボランティア（防犯・野田村）、ADLに感謝状、ビジネスアイデアコンテスト、彩才祭、青少年交流事業、27年度新役員、学園祭表彰
- p6-7 移動型緊急手術室、行事予定、キャリア教育応援企業表彰、教育改善シンポ、高大連携、科学であそぼう、海外研究員、ものづくりマイスター認定、春のオープンキャンパス、27年度海外語学研修参加者募集、入試日程

p8-9 **カラーページ**
「八戸工大二高美術コース誌上作品展」

八戸工業大学第一高等学校

- p10-11 工大一祭、バスケットボール部ウインターカップ出場、アイスホッケーU20世界選手権大会代表、三部展+1、写真部県高総文最優秀賞、宿泊研修、修学旅行、校内研修、進路状況、資格取得、消防クラブ、同窓祭

八戸工業大学第二高等学校

- p12-13 進路状況中間報告、ブルネイ青少年交流事業、スーパーカレッジ強歩、修学旅行、芸術鑑賞会、美術コース作品展、ボランティア活動

さくら幼稚園

- p14-15 はっぴようかい、かたぐるま、ようちえんってこんなところ、とらんぼりん

p16 理事会・評議員会報告

新年を迎えて



学長 藤田 成隆

輝かしい新年を迎え、皆様の益々のご活躍とご健勝をお祈り申し上げます。

さて、昨年、(株)帝国データバンク青森・八戸支店から、県内企業の出身大学別社長数のランキングが公表されました。企業を株式会社・有限会社に限定し、2013年12月末時点のデータですが、上位10位内に入っている県内大学は本学と弘前大学の2校のみでした。大学の設立年や卒業生数を考慮すると、本学の卒業生がいかに努力して困難な道を切り拓いてきたかがわかります。

ここ数年の間、学生アイデア・企画を募り採択されると支援等を受けるという自治体や各種団体の事業が少しずつ増え、それに学生たちが積極的に応募し、素晴らしい成果を収めています。いくつか例を挙げると、「学生まちづくりコンペティション」で市長賞受賞、「にぎ

わい拠点施設の活用アイデアコンペ」で最優秀賞受賞、「ビブリオバトル in 八戸」で優勝、「スマートデバイスグランプリ東京大会」で優勝、「全国きものデザインコンクール(一般CGの部)」で会長賞受賞などです。また、宮城県で開催された「キャンパスベンチャーグランプリ東北」では、本学学生の提案が、東北大学、弘前大学の学生を抑えて、最優秀賞(表彰式は2月)に選ばれたとの連絡を受けました。

昨年末、国によって地方創生における「長期ビジョン」と「総合戦略」が取りまとめられ、そこでは、大学に対して産学官金連携による地域産業を担う高度な人材育成と地域課題の解決への取り組みを求めています。これは、本学がこれまで行ってきた教育研究のミッションと非常に似ています。一言でいえば、グローバルな視点を持つ課題解決型の人材育成と産官学金連携による地域産業の発展に寄与する貢献であり、こうした取り組みがこの先益々重要になることは明らかです。本学では、今後も社会で活躍できる人材育成のための教育改革を継続的に実施し、将来を見据えた魅力ある教育組織の構築と実現を目指していく所存ですので、一層のご理解とご協力をお願い申し上げます。

成人式で「八戸市民憲章」朗読

1月11日、八戸市体育館で催された八戸市の成人式で、機械情報技術学科2年の中村太郎さん(八戸工高)とバイオ環境工学科2年の小渡千秋さん(八戸工大二高)が、新成人を代表して「郷土を愛し文化の高いまちにしましょう」など、5項目からなる「八戸市民憲章」を声高らかに読み上げた。

式後、中村さんは「チャレンジ精神を忘れず、努力していきます。自立した人間になれるよう、まず大学の勉強を一層

がんばります」、振袖姿の小渡さんは「これからは何事にも大人としての自覚を持って取り組んでいきたい」と晴れやかな笑顔で20歳の抱負を述べた。



アイススケート部全日本大会出場

アイスホッケー部門インカレ出場

第87回日本学生氷上競技選手権大会東北地区予選(11月21日～23日・ベルサンピアみやぎ泉)

決勝:対八戸学院大(3-2)・準決勝:対東北福祉大(4-2)

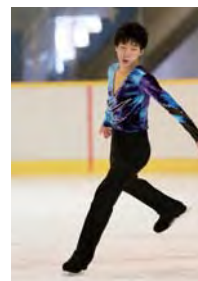


インカレ予選で終盤の猛攻をしのぎ“初の2連覇達成”

木村真人さん「全日本フィギュア選手権大会」に出場

フィギュア部門の木村真人さん(感性デザイン学科3年/八戸工大一高)が、10月30日～11月2日、千葉県の「アクアリンクちば」で行われた「第40回東日本フィギュアスケート選手権大会」で総合5位の成績を収め、「第83回全日本フィギュアスケート選手権大会」に2度目の出場を果たした。

日本を代表する選手が一堂に会すこの大会は、12月26日～28日、長野県のビッグハットで行われテレビで全国放映された。木村さんは、初出場の際は国内最大級の大会に緊張して満足のゆく演技ができなかったようだが、今回はショートプログラムもフリースケーティングもパーソナルベストを更新し、総合で15位に入った。演技を終えた木村さんに、観客席からスタンディングオベーションがおくられた。



卓球部初優勝

第56回NHK杯青森県卓球選手権大会



写真：NHK青森HP同大会写真ギャラリーより

11月29日・30日、新青森県総合運動公園マエダアリーナを会場に、第56回NHK杯青森県卓球選手権大会が行われ、本学卓球部が一般男子の団体と個人で初優勝に輝いた。

一般男子団体は、苦しい試合もあったがなんとか乗り切って決勝に進出、東奥学園高等学校を相手に3対0で勝利し、念願の初優勝を果たした。一般

男子個人の決勝は本学選手同士の争いとなり、優勝は吉野裕規さん（バイオ環境工学科4年／北海道・北見柏陽高）、準優勝は松浦善幸さん（システム情報工学科4年／福島・小野高）が獲得した。また、小館卓司さん（電気電子システム学科3年／弘前工高）、相良友樹さん（機械情報技術学科2年／北海道・札幌龍谷学園）、江馬健史さん（機械情報技術学科2年／北海道・駒澤大附属苫小牧高）がベスト8にランク入りし、入賞を果たした。

選手達は皆、初優勝を目標に試合に臨み、結果は団体、個人ともに優勝という二冠達成の快挙となった。今後も卓球部の更なる活躍が期待される。この大会はNHKのEテレで放映された。

第3位入賞

東日本学生レスリング秋季新人戦



機械情報技術学科1年の菅原大貴さん（岩手・釜石商工高）が、11月26日～28日、東京都の駒沢体育館で開催された「東日本学生レスリング秋季新人戦」に出場し、第3位に入賞した。

菅原さんが入賞したフリースタイルBは、大学入学後に競技を始めた選手と高校時代に全国大会出場のなかった選手で争われる。今回は、防衛大、法政大、慶応義塾大、東大、山梨学院大、本学の6大学から11人がエントリーした。菅原さんの今後の活躍が期待される。

ビブリオバトル初代チャンプ本



11月1日、「第1回ビブリオバトルin 八戸」の決勝戦が、デーリー東北新聞社で開催され、電気電子システム学科3年の田畑圭一さん（七戸高）が紹介した小説が、初のチャンプ本に選ばれた。

この催しは、本好きの市民が気に入った本を持ち寄り、その面白さについて5分の持ち時間で書評した後、観客が一番読みたくなった「チャンプ本」を選ぶというゲーム感覚を取り入れた書評合戦で、今回初めて八戸で開催されたものである。決勝戦には、9月20日の予選会で選ばれた高校の部、大学生の部、社会人I部・II部、シニアの部の代表5人が、さらにパワーアップして舌戦を繰り広げた。田畑さんが紹介したのは、本屋大賞に選ばれた『海賊とよばれた男』（百田尚樹著）というノンフィクション小説。勝敗はこの日観戦に訪れた市民約200人の投票によって決し、田畑さんが初のパトルを制した。

全国大会第4位

スマートデバイス GP2014

11月1日に東京都江東区「MONO」で開催された「スマートデバイスGP2014東京大会」（地区大会）に出場して第1位となったシステム情報工学科4年の角田宏樹さん（岩手・種市高）が、12月13日に同じ場所で開催された全国大会に出場し、各地区代表34チームの中で第4位の成績を収めた。

リクルートキャリアが主催するこの大会は、自動車業界で開発や実用化が進む「高速自動ドライブ」「自動ブレーキ」「自動パーキング」などの機能をレゴ社の「マインドストーム」に組み込み、そのスピードと正確さを競いあうもので、学生達に自由な発想で未来のクルマのキーとなる制御技術に挑戦してもらおうと今年初めて開催されたものである。

角田さんは、組み込みソフトウェアロボコン「ETロボコン」に取り組んでいる山口広行准教授の研究室の一員で、これまで培ってきた技術に更に磨きをかけて全国大会に臨み、地区大会よりも5秒短い走行を2回連続で披露して見事上位入賞を果たした。



最高賞「マチニワ賞」

（仮称）三日町にぎわい拠点「マチニワ」活用アイデアコンペ



写真：八戸市HPより

10月11日、八戸ポータルミュージアム「はっち広場」を会場に、“（仮称）三日町にぎわい拠点「マチニワ」活用アイデアコンペ”の公開プレゼンテーションが行われ、「as」という名前で応募した土木建築工学科3年の鮎田亮太さん（三沢高）と島守崇央さん（八戸西高）の提案が、個人・団体合わせた10件の提案から最高賞の「マチニワ賞」に輝いた。

このコンペは、八戸市が開発を進めている中心街ビル跡地をどのように活用すべきか、広く市民にアイデアを募集していたものである。二人は、「人とモノの交流点としての空間づくり」を提案。中心街と横町をつなぐ場所に八戸のイメージの「港」に見立てた交流の場と、子どもたちが遊んだり大人が寝転んだりできるガラス屋根で覆われた芝生の公園を設けるというアイデアを発表、世代を超えたつながりをつくるという部分が高く評価された。

第17回ロボットコンテスト開催



12月17日、A V ホールにおいて機械情報技術学科3年の「ロボット創作」の授業で実施している「ロボットコンテスト」が開催された。

このコンテストは、学生達が毎年異なる競技課題に取り組んで設計・製作したロボットの性能を試合形式で競いあうもの。今回は、鉱石に見立て

た円柱ブロック17個を所定の場所に運ぶロボットとそれを高く積み上げる2台のロボットを製作し、ブロックを積み上げた高さ、運んだ数、置くまでのスピードを競った。

今回のコンテストは、8チームに分かれてロボットを製作。はじめにAグループ、Bグループそれぞれ4チーム

による予選リーグが行われ、4チームが決勝戦に勝ち進んだ。そして、一発勝負の決勝戦で熱戦を制したのは、三上陸さん(弘前工高)、山口航平さん(八戸工高)、吉田朋平さん(八戸工高)、類家啓史さん(八戸西高)のB-4チームだった。このチームが製作した2台のロボットは、どちらも最後まで安定した動きをみせ、今回最高の16個を余裕で積み上げた。

白熱した試合が繰り広げられた会場は、終始応援の声や笑い声であふれ、試合終了後に講評と表彰式が行われた。



「大学生防犯ボランティア」指名書交付式



11月17日、「大学生防犯ボランティア」の指名書交付式が本学で行われ、青森県警察本部生活安全部同企画課犯罪抑止対策室の石田利也室長から、活動に参加する本学の学生達に指名書が手渡された。

警察庁が全国で展開しているこの活動は、大学生を中心とする若い世代による自主防犯活動の促進と定着化を目的に実施しているもので、青森県では八戸、青森、弘前の三地区で行われている。

本学で現在この活動に参加している学生は36名おり、今回新たに12名が加わった。今後は、総勢48名のメンバーが授業の合間や放課後を利用して、警察署が実施する各種犯罪抑止活動に積極的に関わり、地域の犯罪被害の未然防止に取り組んでいくことになっている。

ボランティア活動 野田村復興支援の子ども向けイベント



11月2日、感性デザイン学科の1年生～4年生の有志27名が、岩手県九戸郡野田村の「野田キッズセンター」と「チーム北リアス・日本災害救援ボランティアネットワーク(兵庫県西宮市)」などが主催する「子ども向けイベント」に、ボランティアで参加した。今回の活動は、野田村教育委員会の要請を受けて行ったもので、学生達は子どもたちと一緒に楽しもうと、「プラバン作り」「はちおり」「オリジナル缶バッジ」「似顔絵」「ミニ絵画展」などのワークショップを開催して子どもたちを元気づけた。

野田村の子どもたちは、震災後3年を経た今も仮設住宅での生活が続いており、夢中になってプラバンを作る様子に学生達は大満足の様子だった。

ADLに感謝状

11月8日・9日、三八・上北流域林業活性化センターが主催する県産材フェア「森のめぐみ展 in はっち vol. 4」が、八戸ポータルミュージアム「はっち」で開催され、建築系学生サークル「ADL」(建築デザイン研究会)に、イベントへの協力に対し感謝状が贈られた。

この催しは、三八地域県民局や森林組合、三八地域県産材で家を作る会などが、森林や木材への理解を深めてもらう目的で実施しているもので、今回も様々な展示やパフォーマンスが行われた。ADLは、東日本大震災後に建てられた災害公営住宅に設置するベンチを制作する際に、被災したクロマツを提供してもらったことをきっかけにこの催しに参加、「木匠塾」などの活動を紹介してきた。

メンバーらは「地元の職人さんや企業の皆さんから貴重な体験をさせてもらっている。これからも木材を使った活動を続けていきたい」と話す。



「大企業の技術を活用した大学生によるビジネスアイデアコンテスト」に参加して

富士通(株)の持つ開放特許技術を学生
のアイデアでアレンジし、地域企業に
ビジネスとして提案するという、表記
の活動に5人のチームで参加しまし
た。私達の他に県下の3大学から参加
がありました。6月にキックオフ会が
あり、その後、アイデアの作り方や
プレゼンテーションの方法を学ぶ研
修、2度の提案内容のブラッシュア
ップ会、企業を訪問しての模擬的なビ
ジネス提案、弁理士の先生による実地指
導などを経て、提案内容の完成度を高
めていきました。このような社会人の
方々との触れ合いは、日頃機会がない
だけに勉強になりました。

私達のチームは、「チタンアパタイト
を用いた商品開発」として紫外線で
茶渋を防ぐティーセットを考案し、業
務用途に紫外線照射乾燥機とセットで
リースするビジネスプランを提案しま
した。12月に実施された「ビジネスア
イデアコンテスト」では優勝は逃した
ものの、独自の実験を踏まえた提案に
一定の評価を頂きました。今回の活動
を終えて身の回りのものが素晴らしい
アイデアに満ちていると同時に、多く
の不便が消費者のニーズとして我々の
すぐ隣に横たわっていることに気付
けるようになりました。物作りは、「ど
んなことが出来ればいいのか、どんな



日を夢に見るか」から始まります。今
回の経験は、知識・技能の習得に勝ると
も劣らない貴重な財産になりました。
蛭名琢磨（4年／八戸工高）、須藤大
志（3年／岩手・金ヶ崎高）、蒔苗優
（3年／弘前東高）、田畑圭一（3年／
七戸高）、松原大（2年／八戸工高）

平成26年度彩才祭を終えて



11月15日・16日、文化会主催の「彩
才祭」が、八戸ショッピングセンター
「ラピア」2階ホールで開催され、
850人を超える来場者で賑わいまし
た。

ここ数年、おいらせ町のショッピン
グセンターで開催していましたが、今
年は場所が変わっても楽しめる催しを
計画しました。会場でのアンケートに
は、「体験型で楽しかった」「子供も楽

しめ、大学の楽しい雰囲気が伝わった」
などの感想が寄せられ、夜遅くまで準
備したかいがありました。また、開催
場所が変わったことで、改善すべき点
が見つかりました。今回の経験をもと
に今後さらに上を目指し新役員と共に
頑張っていきたいと思っています。

準備を進める中で、文化会会長とし
て多くの事を学びました。特に相手に
正確に伝えることがどれほど重要で難
しいことなのか、より良いものを作る
うとする気持ちを大事にしながら行動
することが如何に大切か痛感しまし
た。参加した13団体の皆さん、学友会
並びに体育会、文化会の仲間達の協力
に心より感謝します。

文化会会長 田守 健太
(システム情報工学科3年／六戸高)

平成27年度 学友会・体育会・文化会新役員



学友会委員長

木村 郁也
(機械情報技術学科
2年／弘前中央高)



体育会会長

佐藤 魁仁
(システム情報工学科
2年／秋田・湯沢高)



文化会会長

我妻しのか
(感性デザイン学科
2年／むつ工高)

青少年交流事業「JENESYS2.0 ASEAN 歴史文化14陣」 カンボジア・インドネシア学生プログラム

10月23日、青少年交流事業「JENE
SYS2.0」の一環で日本を訪れている
カンボジアとインドネシアの大学生と
高校生ら65名が本学を訪れた。

この事業は、日本経済の再生に向け
て、我が国に対する潜在的な関心を増
進させ、訪日外国人の増加を図ると
ともに、クールジャパンを含めた我が
国の強みや魅力等の日本ブランド、日
本的な「価値」への国際理解を増進さ
せることを目指しているもので、日本
各地で歴史・文化関連施設の視察や地
方自治体への表敬訪問、同年代の日本
人学生との交流等が行われている。

歓迎セレモニー後、本学及び八戸市
の紹介と互いの国の伝統芸能が披露さ



れた。カンボジア訪問団は民謡や民族
舞踊、インドネシア訪問団は武術や楽
器演奏、本学は茶道愛好会の女子学生
達がお点前を披露し、お茶と和菓子が
振る舞われた。その後一行は、キャン
パス内を見学し、ホームステイ先の南
部町へ向かった。

第42回学園祭表彰

学園祭の活性化に貢献した団体に贈
られる「第42回学園祭表彰」が決定し、
12月3日、表彰式が行われた。

◇学科研究展示部門

- ・学 長 賞
感性デザイン学科有志
- ・学務部長賞
大黒研究室（機械情報技術学科）
信山研究室（電気電子システム学科）
若生研究室（バイオ環境工学科）

◇課外活動展示部門

- ・学 長 賞
合唱部
- ・学務部長賞
茶道愛好会
吹奏楽部

ドクターカー「移動型緊急手術室」を開発

高次医療機関が近ければ助かったかもしれない命が、医師や看護師など医療従事者のいない医療過疎地では失われてきま



した。心肺停止などの場合は、いかに早く高度な治療を開始出来るかが鍵だといいます。しかし、医療過疎地は、発生から短時間で人工心肺補助装置（PCPS）等を用いた高度な救命処置を行うことは大変困難なことでした。

青森県南部地域の中核病院である八戸市民病院には、全国の医師たちから注目を集めている救急医療センターがあり、副院長の今明秀医師らが救急医療の最前線で活躍されています。その今医師からドクターカーの共同研究の申し出を受け、本学では3年前から「移動型緊急手術室」の開発に取り組んできました。そして、高いハードルを一つずつクリアし、PCPSを使用した体外循環式心肺蘇生（ECPR）を行う装置を装備したドクターカー「移動型緊急手術室3号機」がこのほど完成、10月22日・23日に弘前市で行われた「消防援助隊北海道東北ブロック合同訓練」に参加して検証を行いました。会場では心肺停止を想定した患者の治療や瓦礫等に長時間挟まれていたことによって起こる「クラッシュ症候群」傷病者の緊急人工透析等の手術シミュレーションが行われ、その有効性が立証されました。こうした八戸市民病院と本学との取り組みは、救命及び社会復帰の可能性を広げ医療過疎問題を解決する世界初の試みとして、多くのメディアに取り上げられております。

本学では、各方面からの早期実用化を望む声を受け、実用化に向けた更なる研究開発に取り組んで参ります。

機械情報技術学科 浅川 拓克（助教）

あおもりキャリア教育応援企業表彰

11月19日、青森県総合学校教育センターにおいて、「あおもりで『生きる・働く』を学ぶ教育推進大会」が行われ、青森県内で行われている出前授業、職場見学、職場体験、インターンシップ等を支援する企業や事業所の中から、本学を含む14団体がキャリア教育応援企業として表彰を受けた。

この催しは、青森県教育委員会が主催するキャリア教育実践事業の一環で行われたもので、学校の教職員、企業・事業所・NPO、地域住民、行政職員が一堂に会して講演や意見交換を通して今後のキャリア教育のあり方を探ろうというもの。今回の受賞は、本学が実施している子どもたちにエネルギーや環境問題に理解を深めてもらう教育支援活動が評価されたものである。

第16回教育改善に関するシンポジウム 第8回大学院FD研修会

11月27日、大会議室において「第16回教育改善に関するシンポジウム・第8回大学院FD研修会」が開催された。この研修会は、教職員が本学の学部及び大学院が当面する重要課題について共通理解を深め、活発な討議によって教育活動の改善を図ることを目的に行われているものである。

今回は、「動き始めたジェネリックスキル（学士力・社会人基礎力）の育成と評価～PROGテストの試行について～」と題して講演が行われた。講師の（株）リアセックの近藤賢取締役は、客観的に学生のジェネリックスキルを測定する「PROGテスト」の試行事例や他大学のジェネリックスキル育成の取り組み事例を紹介し、参加者らはその意義や目的などの発表に熱心に耳を傾けていた。



第12回八戸工業大学高大連携推進協議会

12月1日、第12回八戸工業大学高大連携推進協議会が開催され、高校校長ら関係者40名が出席した。

この協議会は、青森県内及び岩手県北の高等学校との連携推進を目的に平成13年に設置され、これまで時節に応じた様々なテーマについて協議を重ねてきた。今回は、文部科学省中央教育審議会の高大接続特別部会臨時委員を務めるリクルート進学総研所長の小林浩氏を講師に、高等教育機関を取り巻く環境の変化、教育の達成度評価の新たな取り組み、入試改革等、中教審での審議状況を踏まえた中長期の教育改革について講演をしていただき、種々意見交換が行われた。また、藤岡与周学務部次長から文部科学省大学教育再生加速プログラム（AP）に採択された本学の教育改革への取り組み



が報告され、出席者らは今後の教育の質保証、教育の達成度評価及び新たに導入される入試制度等について理解を深めた。

2月～4月 行事予定

- | | |
|-----------|-------------------------------|
| 2月 | 5日(木) 専門高校・総合学科入試
一般入試(前期) |
| | 13日(金) AO入試第4クール |
| | 23日(月) 大学院入試(二次)～24日(火) |
| 3月 | 5日(木) 第2回就職懇談会～6日(金) |
| | 15日(日) 春のオープンキャンパス |
| | 19日(木) AO入試第5クール |
| | 20日(金) 学位記授与式 |
| | 23日(月) 一般入試(後期) |
| | 31日(火) 後期終了・学年終了 |
| 4月 | 1日(水) 学年開始・前期開始 |
| | 3日(金) 平成27年度入学式 |
| | 6日(月) 前期授業開始
ガイダンス～7日(火) |
| | 7日(火) 開講試験(1学年) |

第9回科学であそぼう おとなと子どもの科学教室



11月30日、八戸ショッピングセンター「ラピア」において同イベントが開催され、延べ800組以上の家族が冬の日を楽しんだ。

このイベントは、本学サイエンス愛好会と教職員・本学OB・一般市民の有志によりスタートし、今年で9年目を迎える。八戸市児童科学館との合同企画でもあり、冬の科学イベントとして定着している。新テーマの廃油利用の「エコプルキャンドル」、防災技術社会システム研究センターのポリマーを使った「水を吸うと・・・ぶるぶる不思議体験」などが人気だった。メカトロニクス研究会が担当した「新聞紙で作る家」（1面が新聞紙6枚を貼り合わせた立方体）は、東京ドームが空気だけで膨らんでいることを再現したもので、子ども達の中には入り秘密基地さながらに楽しんでた。

海外研究員が本学で研修



バングラデシュ原子力規制庁のハッサン・タンヴィル氏とチュラロンコン大学(タイ・バンコク市)のヨー・チョンパイブル氏が、10月初旬から約2ヶ月間、本学で研修を行った。

この研修は、文部科学省の「放射線利用技術等国際交流（研究者育成）事業」の一環で行われたもので、二人は機械情報技術学科の佐藤学教授と電気電子システム学科の石山俊彦教授の下で原子力安全工学等について学び、学内設備を利用した実験と座学のほか県内エネルギー関連施設での様々な取り組みを視察した。原子力発電の新規導入を目指す国々では、国外での研修が盛んに行われており、本学では昨年から引き続き海外研究員生を受け入れている。

ものづくりマイスターに認定

工作技術センター技能職員の黒滝稔さんと日影学さんが、平成26年度第3回「ものづくりマイスター制度」（若年技能者人材育成支援等事業）において、卓越した技能が認められ、黒滝さんが「機械保全」のマイスターに、日影さんが「仕上げ」のマイスターに認定された。

この制度は、厚生労働省が平成25年度から実施している新しい事業で、ものづくりに関して優れた技能、経験を有する技能者を「ものづくりマイスター」として認定・登録し、認定を受けたものづくりマイスターが、実践的



な実技指導を通して効果的な技能の継承や後継者の育成を行うことを目的としている。対象分野は、建設業および製造業など112職種。今回の認定により黒滝さんと日影さんには、更なる人材育成への貢献が期待される。

春のオープンキャンパス開催！

3月15日(日)、春のオープンキャンパスを開催します。在学生達が案内するキャンパスツアー、大学周辺見学ツアー、サークル紹介、学科紹介・見学・体験等のほか、職員による保護者向けガイダンス、個別相談コーナー等、在学生主体で実施します。高校卒業後の進路を考えている1、2年生は勿論、まだ進学先の決定していない3年生も参加することができます。保護者の方も参加できますので、是非、お越しください。



平成27年度海外研修 参加者募集

(卒業の単位として認定)

英語研修

- ・ 研修期間
平成28年2月下旬（予定）
- ・ 研修先
南クイーンズランド大学
(オーストラリア・トゥーンバ市)
- 問合せ先 斎藤 明宏（助教）
TEL 0178-25-8051

中国語研修

- ・ 研修期間
平成27年8月下旬（予定）
- ・ 研修先
瀋陽工業大学(中国・遼寧省瀋陽市)
- 問合せ先 山本 忠（准教授）
TEL 0178-25-8130

平成27年度入試日程

工学部・感性デザイン学部 問合せ先 入試部入試課 0178-25-8000（直通）

選抜方法		願書受付期間	試験日
専門高校・総合学科入試※		平成27年1月5日(月)～1月26日(月)	平成27年2月5日(木)
一般入試	前期※	平成27年1月5日(月)～1月26日(月)	平成27年2月5日(木)
	後期	平成27年3月2日(月)～3月17日(火)	平成27年3月23日(月)
センター利用入試	前期※	平成27年1月5日(月)～1月30日(金)	平成27年1月17日(土)・18日(日)の大学入試センター試験 (本学の個別試験は課さない。)
	中期	平成27年2月2日(月)～2月20日(金)	
	後期	平成27年3月2日(月)～3月23日(月)	
AO入試	クール	エントリーカード受付期間	面談日
	第4クール	平成27年2月2日(月)～2月6日(金)	平成27年2月13日(金)
	第5クール	平成27年3月2日(月)～3月13日(金)	平成27年3月19日(木)

※…学業特待生選考試験を兼ねる



「Glitchy boy」油彩／F100
安藤 慎（八戸第一中）



「縄張り」日本画／F20
藤原 出穂（三戸中）



「フンボルトペンギン」油彩／F50
島田 渉平（百石中）



「Square girl 黒」アクリル／S40
安達 香那（下長中）



「Square girl 白」アクリル／S40
安達 香那（下長中）

八戸工大二高

美術コース誌上作品展



「Princess / 不思議の国」立体（スケートボード）
源波 拓巳（下長中）



「CI レコード会社プラン」CG／B1
小野寺 宥紀（北稜中）



「サイの本棚」立体
澤口 潤（美保野中）



「鹿の引き出し」立体
澤口 潤（美保野中）



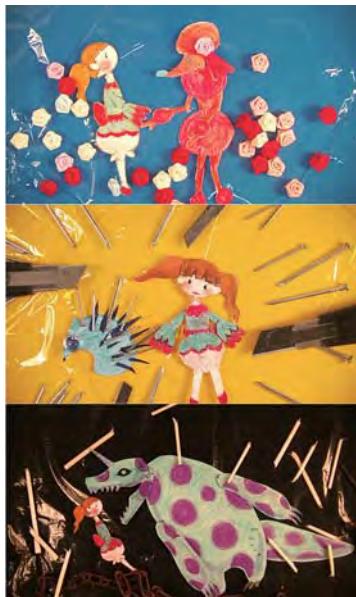
「pencil VS camera」CG／B2／A3
峰村 巧光（白山台中）



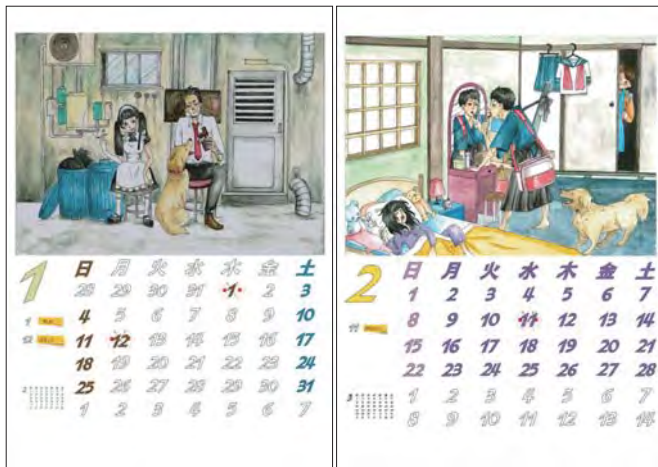
「梨陽だまりの空間」油彩／F100
小笠原 汐梨（白山台中）



「星座」アクリル／B1
田中 葵（豊崎中）



「ヨアソビ」映像／1分
袖村 朱音（田子中）



「あかねちゃんカレンダー」着彩／B2
袖村 朱音（田子中）



「八戸図書喫茶プロジェクト」CG／B1
吉田 美咲（八戸第二中）



「静寂」油彩／F100
土橋 真衣（江陽中）



第45回工大一祭



11月1日・2日の両日、第45回工大一祭が開催された。両日ともに天候に恵まれ、数多くの来場者を迎えることができた。工夫を凝らした各科の展示や、恒例の部活動模擬店など、来場者を満足させた。女装大会、カラオケ大会、吹奏楽部コンサート、大演芸大会といったステージ発表も例年以上の盛り上がりを見せた。今年初めて小学生以下の来場者に向けたキッズコーナーを用意し、めん作りやくじ引き、お菓子作りなど、親子連れで楽しむ姿が見られた。また、1学年展示の「ドミノ倒し」も地域の人との交流に一役買い、祭りを盛り上げた。

バスケットボール部

全国大会「ウインターカップ」出場

11月2日・3日、十和田市総合体育センターで、全国高等学校バスケットボール選抜大会青森県予選が行われた。県の高校総体で惜敗した本校チームは、ディフェンスを徹底的に強化し速攻で点を取る力を磨いて試合に臨んだ。1・2年生がゲームをつなぎ3年生が締めるという練習の成果が実を結んで見事優勝し、第45回全国高等学校バスケットボール選抜優勝大会「ウインターカップ2014」に出場を果たした。



アイスホッケー部

「U20世界選手権大会」日本代表として出場

12月14日～20日、ハンガリー・ドナウイパロシュで行われた「2015IHFアイスホッケーU20世界選手権」の日本代表に、ゴールキーパーの古川駿君（3年普通科・八戸第二中）が選出された。日本チームは合宿を行った後、ポーランド・カザフスタン・フランス・ウクライナ・ハンガリーと対戦した。



古川君は、対フランス戦のゲームウィニングショット戦でフランスのシュートを全てセーブし、勝利に貢献した。さらに対ハンガリー戦では、ゲームベストプレイヤーに選ばれる活躍をした。

第34回三部展+1

充実した内容・入場者多数大盛況

11月15日・16日、本校文化部（写真・美術・JRC・パソコン）による「第34回三部展+1」が、八戸ポータルミュージアム「はっち」シアター2で開催された。

写真部は、10月に行われた県高総文祭で個人優秀賞を獲得した作品を中心に、各コンテストでの上位入賞作品を展示。美術部は、比較的新しい技法であるアクリル絵の具を用いた作品の展示。JRC部は、ボランティア活動の記録等をパネルで、パソコン部は、3Dプリンタを用いて作成した造形物を各々紹介した。また、初の取り組みとして、県高総文祭書道部門および市美術展に出品された書道が展示され、一層内容の濃いものとなった。



第35回県高校総合文化祭

写真部門で個人・団体共に最優秀賞受賞

10月24日～26日、第35回県高校総合文化祭写真部門が八戸水産会館で開催された。今年度は11名が、規定枠いっぱいの15点を出品した。審査の結果、出展作352作品の中から、佐々木里菜さん（2年建築・江陽中）が最優秀賞に輝いた。また、優秀賞に、竹駒和樹君（3年電気・種市中）。優良賞に、二部みなみさん（3年教養・湊中）、中嶋畝那君（3年教養・三沢第五中）、千葉友紀君（3年情報・三条中）、片桐敬大君（2年土木・根城中）、宮崎理央さん（2年建築・大館中）が選ばれ、この7名が入賞したことにより、2年連続7度目の団体最優秀学校賞を獲得した。個人最優秀賞を受賞した佐々木さんの作品は、7月に滋賀県大津市で開催される全国高総文祭に出展される。



1 学年

宿泊研修

12月3日～5日、国立岩手山青少年交流の家において、宿泊研修が行われた。生徒は2泊3日の研修を通じて、自主性・協調性を身に付け、集団生活でのマナーを学んだ。レクリエーションでは生徒と教員が一体となって競技を楽しみ、大いに盛り上がった。また、女子のための講座「フラ・ダンス」は、事前に準備した衣装をつけ踊ることの楽しさを味わった。進路講話では、今後の進路選択に役立つ事柄や心構えなど、普段の授業とは違った内容に真剣に聴き入っていた。



2 学年

修学旅行



11月30日～12月4日、広島・関西方面への修学旅行を実施した。見学先の広島平和記念公園とヤマトミュージアムでは、戦争と平和について深く考える機会を得た。修復工事を終えた姫路城は、白く眩いばかりの姿を見せてくれた。寒風が吹きさすUSJでは、時間の許す限りアトラクションを満喫した。奈良公園では鹿と戯れ、大仏様と対面。自ら計画したコースをタクシーで巡った京都の班別研修。能鑑賞も貴重な体験になった。また、ホテルでの過ごし方も学ぶことがたくさんあった。この5日間に体験した出来事は、生徒達の視野を大きく広げてくれたようだ。

3 学年

校内研修

12月3日～5日、校内研修を実施した。「悪徳商法と対処法」「冠婚葬祭講座」「身だしなみ講座」など、卒業を前にした生徒達に知っておいてもらいたい社会の常識やマナーを学ぶ講座を開催した。生徒達は、どの講座も真剣な顔で説明に耳を傾け、特に市内のホテルで実施した「テーブルマナー講座」では、慣れない雰囲気緊張しながらも楽しい時間を過ごした。また、レクリエーションに「長靴アイスホッケー大会」を実施。担任やクラスメイトとの絆を深めあい、良き思い出作りの機会となった。



進路状況報告 進学・就職率共に100%達成

今年度の就職状況は、県内・県外共に求人数が多く、県内約300社、県外約400社から求人があった。特に県外は最近になく好調で、現在も大手企業から求人が多数寄せられている。氷河期と言われていた時期は、女子の就職が苦戦を余儀なくされた。しかし、それも今は緩和され、本校の就職希望者の内定率は1月現在で100%を達成した。

また、進学については、八戸工大はじめ国立鹿屋体育大、関東・関西の有名私立大学、専門学校に多数の合格者を出した。

◆主な進路先◆ (2015/1現在)

【就職】

〈県内〉 八戸セメント㈱、八戸燃料㈱、寺下建設㈱、八戸飼料㈱、東北東京鉄鋼㈱、北日本造船㈱、医療法人藤仁会、㈱よこまち、㈱シェルビー、小幡建設工業㈱、大平洋金属㈱、㈱菅原ディーゼル、㈱オートガード八戸、北日本石油㈱八戸支社、㈱田名部組、太子食品工業㈱ 他
〈県外〉 北海道旅客鉄道㈱、トヨタ自動車東日本㈱本社大衡工場、サッポロライオン㈱、東京電力㈱、JFEウイング、日本通運㈱東京海外引越支社、積和建設㈱東京支社、三鋼製鋼㈱、三菱自動車工業㈱技術センター、トヨタ自動車㈱、トビー工業㈱綾瀬製造所、日野自動車㈱、㈱全日

警、新日鐵住金㈱津製鐵所、いすゞ自動車㈱、日本通運㈱東京支社 他
〈公務員〉 陸上自衛隊 (一般曹候補生2名、自衛官候補生3名)海上自衛隊 (一般曹候補生2名)

【進学】

〈4年制大学〉 国立鹿屋体育大学、八戸工業大学、青山学院大学、千葉工業大学、天理大学、東北学院大学、富士大学、城西学院大学、大正大学、東海大学、国士舘大学、早稲田大学、東洋大学、関西学院大学 他
〈専門学校〉 山野美容専門学校、東京法律専門学校、盛岡医療福祉専門学校、八戸工科大学、八戸歯科衛生士専門学校、東京法律専門学校、仙台北校、青森歯科技工士専門学校 他

高・大連携で 資格取得にチャレンジ

技能検定の受験資格要件が緩和され、高校生の受験が可能となっている。機械コースでは、放課後に機械保全(機械系作業)と機械加工(旋盤作業)について、希望者を対象に指導を行っている。合格率は、機械保全(2・3級)が100%、機械加工(3級)も80%を維持している。本人の努力は勿論だが、八戸工大の工作センターの先生方の協力が大きな力になっている。技能検定を通して「きちんとものをつくる」姿勢を身につけさせ、ものづくりへの意識を向上させたいと考えている。



消防クラブ 救急救命講習会に参加

12月25日、柔道場において救急救命講習会が開かれた。消防クラブ員と部活動生43名、教職員8名が参加した。日々起こる不測の事故や災害などに対処することを目的に、応急手当についての講話とDVD上映、心肺蘇生法の習得とAEDによる緊急処置の実技講習が行われた。生徒達ははじめ慣れない様子だったが、真剣な顔で取り組んでいた。終了後、受講者に救命講習修了証が手渡された。



星雲同窓祭開催 大盛況 ～絆強し～

10月18日、八戸パークホテルにおいて、星雲同窓会主催の「同窓祭2014」が行われた。今回は例年にない程多くの同窓生が参加し、席が足りなくなるほどだった。余興で披露された同窓生の演歌歌手やプロの女性エンターテイナーによるパフォーマンスも、大盛り上がりを見せた。同窓生達は恩師を囲んで、当時の授業や部活動の思い出話に花を咲かせたり、旧友と近況を語り合っていた。次回は、7月に東京で関東支部同窓祭が開催される予定である。



平成26年度

進路状況中間報告

平成26年度3学年(40回生)の進路状況は、国公立大学18名、私立大学53名、私立短期大学4名、専修・各種学校25名が合格。就職・公務員は、26名の採用内定が決定している。青森県警に男子1名、宮城県警に女子1名が合格し、警察官に複数の合格を果たした。数学と理科が新課程となって初めて迎えた推薦入試のため、全体的に志願者が昨年より増える傾向があったが、生徒一人一人の進路達成に向けて、教員と共に一丸となって取り組み、上記の成果を出すことができた。(12月12日現在)

【国公立大学】

釧路公立大学、北海道教育大学釧路校、北海道教育大学函館校、青森県立保健大学4名、青森公立大学2名、弘前大学2名、岩手県立大学、岩手大学3名、宮城大学、秋田公立美術大学、山形大学

【私立大学】

八戸工業大学12名、札幌保健医療大学、八戸学院大学、盛岡大学、仙台白百合女子大学2名、東北学院大学2名、東北工業大学、東北福祉大学、東北文化学園大学、仙台大学、日本赤十字秋田看護大学、東北芸術工科大学7名、埼玉学園大学2名、女子栄養大学、立正大学4名、工学院大学、共立女子大学、実践女子大学、杉野服飾大学、大正大学、東京理科大学、東京造形大学2名、武蔵野美術大学、女子美術大学3名、法政大学、専修大学2名

【短期大学】

札幌国際大学短期大学部、八戸学院短期大学、盛岡大学短期大学部、大妻女子大学短期大学部

【専門学校・各種学校】

アレック情報ビジネス学院4名、東北メディカル学院4名、八戸看護専門学校、八戸調理師専門学校2名、盛岡ペットワールド専門学校、盛岡ヘアメイク専門学校2名、仙台コミュニケーション専門学校、仙台保健福祉専門学校、ファッション芸術専門学校DOREME、宮城調理製菓専門学校、仁愛看護福祉専門学校、慈恵第三看護専門学校、国際パティシエ調理師専門学校、専門学校ミューズモード音楽院、東京栄養食糧専門学校、文化服装学院、東北職業能力開発大学校

【就職】

青森県警、宮城県警、自衛官候補生3名、医療法人杏林会、オトキ

タ酒販(株)、(株)春秋、(株)御菓子のみやきん、(株)北上文化、(株)ドン・キホーテ、(株)三沢興入瀬観光開発、(株)みなとや、(株)ユニバース、(株)吉田産業、(株)リゲイン、三八五オートスクール(株)、シルバーリハビリテーション協会、太平ビルサービス(株)、タクミホーム(株)、有限会社風月堂、社会福祉法人星風会、(株)Du・Pay、(株)style-RANGE、(株)ハローコミュニケーションズ2名

【医療系各種学校 合格の詳細】

青森県立保健大学健康科学部看護学科2名、札幌保健医療大学看護学部看護学科、日本赤十字秋田看護大学看護学部看護学科、八戸看護専門学校看護学科、東北メディカル学院理学療法学科2名、作業療法学科2名、仁愛看護福祉専門学校看護科、慈恵第三看護専門学校看護学科

就職も 頑張っています!



昨年度同様に、今年度も高い就職内定率を誇っている。本校では、公務員・民間就職希望者の支援に力を入れており、簿記検定などの取得支援や長期休業中にも就職対策ゼミを展開している。青森県警と宮城県警にそれぞれ現役合格を果たした富田周君(八戸第一中)と大津智枝さん(八戸東中)は、早期から問題添削と面接対策に集中して取り組み、難関を見事突破した。

【富田君の声】

合格してこれまでの努力が報われた気がします。合格に至るまでは、先生方、家族、多くの友人に支えられました。いろいろな相談も受けてくれて、本当に感謝しています。ありがとうございました。

JENESYS2.0 ASEAN 歴史文化16陣

ブルネイ(高校生)プログラム



JENESYS2.0ASEAN 歴史文化16陣ブルネイ(高校生)プログラムにより、ブルネイ高校生21名、及び教員2名の合計23名が、12月12日に本校を訪れた。JENESYS2.0は、JENESYSの後継として、3万人規模で実施しているアジア大洋州諸国との青少年交流事業で、日本経済の再生に向けて、日本に対する国際理解を増進させることを目指しているものである。

生徒会主催の学校全体での歓迎セレモニーが、阿保民博校長による英語のスピーチで始まった。その後、美術コースで漢字のゴム印製作体験、続いて華道部によるいけばな実技体験、さらに5つのグループに分かれて英語授業に参加し最後に八戸工業大学見学を行った。彼らの母国語はマレー語だが、意思の疎通は英語で行われ、一日をかけてお互いの紹介や文化交流を図った。また、一行は本校生徒17名と教員2名の家族のもとで、3日間のホームステイを体験した。2日目は、長根リンクでスケートを体験。最終日に実施団体の一般財団法人日本国際協力センター主管による歓送会が、ワシントンホテルで催された。会場ではお互いに民族ダンスと歌謡ダンスを披露し合い、思い出のいっぱい詰まった極めて意義深い交流会となった。

スーパーカレッジ強歩



10月4日、今年度で3回目となるスーパーカレッジ強歩が行われ、学校から階上岳山頂までの約25kmの行程を徒歩で往復した。当日は、小雨の中を出発したが、山を登り始める頃には雨も止み、心地よい秋風を受けながらの登山となった。いざ登り始めると長い急勾配が続く、生徒達は音を上げそうになりながらも仲間と励まし合い一歩ずつ頂上を目指した。登頂すると高みからの眺望に次々に大きな歓声が上がった。仲間との団結力で得られた達成感と、一歩ずつでも継続することの意義を実感したようだった。また、下山途中のオートキャンプ場で、保護者の皆さんが差し入れてくれた豚汁が振舞われ、温かい気持ちのこもった味を満喫した。



10月29日、芸術鑑賞会が行われた。八戸市在住の榎谷伸夫氏主催の演劇集団「ごめ企画」による演目は、南部昔コー人語り、南部昔コ芝居、群読、日本舞踊（手話舞踊）と多彩だった。

聞く機会の少なくなった「正調南部弁」で語られた南部昔コ語りは、南部弁の響きに懐かしさを感じ、初めて経験する手話を交えた日本舞踊は、その仕草に込められた思いが伝わってきた。言葉も語り口もやさしく穏やかな南部の言葉を、決して無くしてはならないのだと感じさせる機会となった。日本舞踊は、披露して下さった方が本校の卒業生ということもあり、生徒達は見事な踊りを食い入るように見ていた。

一学年修学旅行



11月25日～29日、4泊5日の日程で修学旅行に行ってきた。初日は広島平和記念公園で、心を込めて織った千羽鶴を原爆の子の像に納め平和を祈念した。2日目は、世界遺産の厳島神社を見学。初めて見る多島海の美しい瀬戸内海に感動した。U.S.Jで若さをはじけさせ、3日目の大阪のなんばグランド花月では、チュートリアルや桂文珍、吉本新喜劇など本物の芸を堪能した。東大寺の南大門や大仏の見学では、日本の歴史的建造物の壮大さを実感。薬師寺では若い僧侶の講話に引き込まれた。最終日、小雨降る清水寺をめぐり、古都を後にした。生徒達にとって、西国・上方の文化に触れる貴重な機会となった。

第29回美術コース作品展

第29回美術コース作品展が、12月12日～14日、八戸ショッピングセンターラピ



アの1階と2階の催事場で開催され、美術コース生全学年97名が制作した作品190点が展示された。

1階には、卒業制作の制作現場を再現したブースを設置し、アトリエを切り取ったかのような空間に多くの買い物客が引き寄せられていた。また、展示した高校総合文化祭の最優秀作品や各種のコンクールで受賞した作品も興味深そうに見入っていた。2階は、3年生の卒業制作を展示し、100号サイズの油彩、日本画、デザイン、アニメーション、段ボールで造られた動物シリーズの家具等、各自の専攻分野で作られた作品が、来場者の目を楽しました。3日間の来場者は約950名。今回は盛況のうちに終了した。

陸前高田ボランティア

生徒会『K-0運動』スノードーム共同制作



この活動は、被災地陸前高田市の仮設住宅が0（ゼロ）になる日まで、継続して支援を行おうというボランティア活動で、本校美術コースの訪問を含め今回で6回目となる。

12月23日、生徒達は、同市の仮設住宅集會場でスノードームの共同制作を行った。一昨年はクリスマスリース、昨年はクリスマスキャンドルを制作し

て寄贈したが、今回はもっと違った形で仮設住宅の方々と交流ができないかと、スノードームを地元の方々と共同で制作することになった。当日は、お年寄りや子どもら13名が集會場に集まり、生徒達と楽しく会話をしながらスノードームを作り上げた。制作後、震災の話聞くなど様々交流を深め、生徒達の方が逆に生きる力をもらう充実した行事となった。

はっぴょうかい

12月4日・5日のクリスマス会は、朝早くから席を確保しようとして足早にホールへ向かう保護者の姿が見られた。中には子どもに立ち位置を確認させてから座る場所を決める人もいた。衣装を着けて完全になりきり姿となった子どもたちは、緊張しながらも楽しんで演じていた。ステージを見つめる保護者たちは、子どもたちの一挙一動に釘付け。幕が閉まるまでポーズをとり続ける子どもたちに、たくさんの拍手が送られた。何よりの賛辞だ。幕裏の子どもたちの顔は、「やったぞ」という達成感に満ちていた。最後のアトラクションで子どもたちは、サンタクロースからクリスマスプレゼントをもらい、笑顔いっぱいの少し早いクリスマス会を楽しんだ。



聖者の行進

年長 合奏



年少 遊戯
ぶりぶり☆ロックンロール



「うさぎちゃん登場。うふふ♡」

「世界の平和をねがうごやうー」

年中 遊戯
伊賀の戦士ニンジンジャー



「レンガの家の
出来上がり〜」

年長 言語劇
三ひきのこぶた



全園児 アトラクション



「サンタさん、プレゼントをありがとう」

息子と孫のさくら幼稚園

私の長男は昔、一年間さくら幼稚園にお世話になりました。そして今は、孫の愛琉が二年半お世話になっていて、毎日、園での出来事を楽しそうに話してくれます。先日の発表会の役決めでは、「友達がお姫様に選ばれた」と言って手を叩いて喜んだり、友達が怪我をしたことを話しながら、「かわいそう」と涙を流す思いやりの気持ちを持った優しい子に育ってくれています。

また、園で教わった折り紙は、家に帰ってくると、先生になりきって私達に教えてくれます。自分分からないことや一人で出来ないことがあると、泣きながらも分かるまで何度でもやり続ける頑張り屋でもあります。諦めずに頑張る事ができる子に育っているのは、さくら幼稚園の教育方針のおかげだと思っています。感謝、感謝です。



(ばら組 愛琉ちゃんのお祖母さん)
石山 慶子さん

ようちえんってこんなところ



焼き芋会

「えーいっ！
ホクホクお芋になーれ。」



お店屋さんごっこ

「ステキな指輪はいかが？」



飛行機見学会(年長)

「自衛隊の服を着せてもらっちゃった。」

とらんぽりん

～ある日の保育日誌～

満3歳いちご組 12月9日(火)

新聞あそびをした。新聞紙を四角に折って渡すと、「おとうふみたい」「おえかきみたい(スケッチブック)」と言う声が聞こえた。新聞を丸め「遠くが見える望遠鏡だね」と声を掛けると「サンタさんも見えるかな」と大喜びだった。最後に破いて片づけることにしたが、ちびりちびり破く子、大きく破く子、話ばかりして手の動かない子と様々。ちびちび運ぶ子に対してまとめて運ぶの方が片づけは早く、少しずつ協力することができるようになってきている。「みんなでブロック遊び、楽しいなあ〜!!」



年少組 12月12日(金)

久し振りにホールで縄をした。子どもたちも楽しみにしていたようで、「跳べるようになったんだよ!」と教えてくれた。以前は、回すことも跳び越えることもできない子がいたが、今日はほとんどの子が縄を回せるようになっていた。足が揃わずひっかかる子もいたが、声を掛けてやると何度も挑戦していた。手首の使い方や跳ぶタイミングがなかなかつかめなかった子も、終わる頃には「回して跳ぶ」感覚をつかんだようだ。

年中組 12月1日(月)

折り紙で作った「パクパク人形」を持つことが、数人の女の子の間で流行っている。今日も何人かが作っていた。途中までは自分たちで作れるが、立体にするとところが難しく「最後、やってちょうだい」と持ってくる子がいた。その中で、あまり意思表示をすることのないAちゃんが、「先生、全部折れたよ」と、とても嬉しそうに声をかけてきた。「自分で折れたの?すごいね。おめでとう」と言うとさらに嬉しそうにしていた。私も嬉しかった。



「ミッケシリーズ大好き」
りんごはどこかなあ?

年長組 12月11日(木)

「スノーボードに乗る自分」をテーマに、トイレットペーパーの芯などを使って紙工作を行った。トイレットペーパーの芯は、折り紙やビニールテープを貼って体の部分になった。丸く切ったり四角く切ったり細く切ったり、何色も組み合わせでチェック柄にしたり工夫を凝らしていた。手脚はモールを使い、実際にスノーボードに乗るポーズをとりながら形を整えていた。子どもたちが、それぞれ自分のイメージに近づけたいと懸命に考えているのが伝わってきた。



理事会・評議員会

学校法人八戸工業大学は、下記のとおり理事会及び評議員会を開催して各案件について審議を行い、それぞれ原案通り承認した。

◇11月21日 理事会

- ・学校法人八戸工業大学「給与規程」改正に関する件
- ・学校法人八戸工業大学「管理運営規程」改正に関する件
- ・「八戸工業大学研究活動における不正行為防止に関する規程」改正に関する件

◇12月19日 理事会・評議員会

- ・八戸工業大学工学部「建築工学科」の廃止に関する件
- ・八戸工業大学工学部「建築工学科」の廃止に伴う「寄付行為」変更に関する件
- ・学校法人八戸工業大学「事務組織規程（全体組織図）」改正に関する件

◇1月16日 理事会

- ・任期満了に伴う後任の学校長候補者の選任に関する件
- ・学校法人八戸工業大学「経理規程」改正に関する件
- ・学校法人八戸工業大学「非常勤講師就業規則」改正に関する件
- ・八戸工業大学「特任教員に関する規程」改正に関する件
- ・八戸工業大学「任期付研究員・任期付研究支援員規程」改正に関する件

表紙 八戸工業大学第二高等学校
 ブルネイの高校生来校（アジア大洋州諸国との青少年交流事業）
 裏表紙 八戸工業大学第二高等学校
 生徒会ボランティア（陸前高田市仮設住宅）